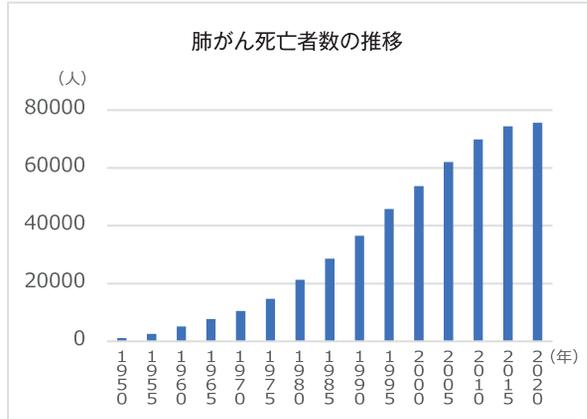




肺がん検診について

肺がんの特徴

- ① 肺がんによる死亡が増えています。がんで亡くなる人の**5人に1人は肺がんによるもの**で、がん死亡の第1位です。
- ② 肺がんは症状に乏しい病気です。肺がんを治すためには**症状が出る前に発見**すること、つまり早期発見早期治療が重要です。
- ③ 肺がんの**第1の原因は喫煙**です。しかし、アジアではタバコを吸わないのに肺がんになる人が多いことも知られています。



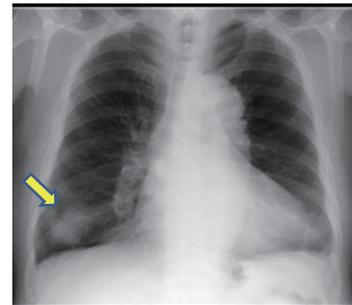
厚生労働統計「人口動態調査」より作図

以上のような理由から、**40歳を過ぎたら肺がん検診を受けることが重要です。**

肺がん検診の方法

- ① X線検査
胸部X線検査を行います(矢印)。
- ② 喀痰検査
ヘビースモーカーでは喀痰検査を追加します。

肺がんの胸部X線像



※低線量胸部CT検査

海外の研究で、ヘビースモーカーに対する低線量胸部CT検査は、死亡率減少効果を示す証拠があることが明らかになり、肺がん検診ガイドライン2022(日本肺癌学会)では「行うよう勧められる」とされました。今後、我が国でも普及して行くことが期待されます。

- ③ 精密検査
検診で「異常あり」という結果を受け取った場合は精密検査を受けてください(実施医療機関は巻末参照)。

メッセージ

- ☑ 肺がん予防にはまずは禁煙です。周囲のタバコ煙を吸うことでも肺がんになる危険性がありますので、室内環境に気を配ることも重要です。
- ☑ 2週間以上続く咳や、痰に血が混ざる時は、必ず医療機関を受診しましょう。
- ☑ 「X線検査による放射線被曝はどのくらい危険でしょうか？」
X線検査1回の被曝線量は、日本人が1年間で(宇宙、空気中、大地、食物から)自然に浴びる放射線の100分の3以下と報告されています(環境省)。つまり、検診で早期発見される利益は、放射線被曝の危険を上回るといわれています。